

# 平成30年度年度末 学校評価アンケート結果

福島県立只見高等学校



1月に生徒、保護者、教員を対象とした今年度の学校評価アンケートを実施しました。その結果をお知らせいたします。  
(アンケート回収率：生徒100%、保護者85.6%、教員100%)

## 1 アンケート項目および評価方法

以下の4つの大項目の中に各5～6の小項目を設け、4段階(A～D)※で評価しました。

- I 学力および授業の質の向上(教員の授業の工夫、生徒の家庭学習等に関して)
- II 進路目標の実現(進路目標、情報提供、進路指導等に関して)
- III 生徒指導および部活動(服装・頭髪、言葉遣い、部活動等に関して)
- IV その他(整理整頓、生徒の学校生活等に関して)

※  
A:「はい」  
B:どちらかといえば「はい」  
C:どちらかといえば「いいえ」  
D:「いいえ」



## 2 アンケート結果

※達成度=評価Aを90%,Bを70%,Cを30%,Dを10%として評価者数で平均した値

### (1) 各評価者からみた平均達成度(昨年度)

	生徒	保護者	教員
	70.2%(70.2%)	70.5%(71.5%)	69.2%(63.9%)

### (2) 各評価者からみた高い評価(各3項目)

評価者	順位	項目	達成度	順位		
				生	保	教
生徒	1	あなたの服装・頭髪は清潔できちんとしていますか。	80.8	1	3	18
	2	あなたは部活動等に積極的に取り組んでいますか。(～いましたか。)	78.0	2	2	8
	3	あなたや保護者が提出した書類(申請)について、学校はきちんと処理していると思いますか。	75.3	3	6	4
保護者	1	あなたのお子さんは楽しく学校に通っていますか。	79.9	9	1	12
	2	あなたのお子さんは部活動等に積極的に取り組んでいますか。(～いましたか。)	79.7	2	2	8
	3	あなたのお子さんの服装・頭髪は清潔できちんとしていますか。	78.7	1	3	18
教員	1	わかる授業をするための工夫をしていますか。	87.6	6	9	1
	2	生徒の進路等について、生徒と十分なコミュニケーションをとっていますか。	80.6	14	17	2
	3	生徒に課す課題の量や質は適切ですか。	79.4	13	13	3

### (3) 各評価者からみた低い評価(各3項目)

評価者	順位	項目	達成度	順位		
				生	保	教
生徒	22	あなたは学力の向上に向けて、計画的に家庭学習を行っていますか。	51.5	22	22	22
	21	あなたは進路実現へ向けて、補習や個別指導に積極的に参加していますか。	58.6	21	21	13
	20	あなたは進路に関する自分の適性をよく知っていますか。	62.9	20	11	16
保護者	22	あなたのお子さんは、学力向上に向けて計画的に家庭学習を行っていますか。	53.4	22	22	22
	21	あなたのお子さんは進路実現へ向けて、補習や個別指導に積極的に参加していますか。	59.9	21	21	13
	20	学校は必要な情報を各家庭にしっかりと伝えていたと思いますか。	63.5	11	20	9
教員	22	生徒は計画的な家庭学習を行っていると思いますか。	39.4	22	22	22
	21	生徒の言葉遣いや礼儀はきちんとしているとおもいますか。	51.2	5	7	21
	20	生徒の進路目標は明確になっていると思いますか。	53.5	18	16	20

## 3 アンケート結果の分析

### I 学力および授業の質の向上(教員の授業の工夫、生徒の家庭学習等に関して)

I C T の利用(ChromebookやClassi)やアクティブ・ラーニングの導入による授業改善のために、年3回の授業力向上週間を設け、生徒の学力および授業の質の向上に取り組んだ。まだ試行錯誤の段階ではあるが、教員・生徒・保護者のアンケート結果ではA B評価がいずれも約85%以上となっており、特に生徒からはA B評価の割合が増加している。これは、従来の取組みである「習熟度別や進路別の少人数指導の充実」とともに今年度の取組みが理解を得られているものと思われる。しかし、計画的な家庭学習の項目は本年度も三者とも低い評価であった。他の項目の結果から考察すると、生徒が主体的に計画を建てて進路実現のために学習に取り組むよう環境整備・体制づくりが求められているように思われる。次年度も、学校では3つの時間(勉強開始、就寝、起床)を固定することで生活リズムを整え、英語の予習、数学の復習を軸に家庭学習を進められるように指導していく必要がある。さらに、学校と家庭のそれぞれの立場、関わりの中で協力体制を模索し、三者の達成度がより高まるように取り組んでいかなければならない。

### II 進路目標の実現(進路目標、情報提供、進路指導等に関して)

生徒・保護者ともに達成度は昨年と同程度の値となった。昨年度の進路意識の高まりが継続できているようである。進路指導部の計画する進路講演会や学年で行われる総合的な学習の時間、LHR、クラス掲示等での活動が機能しているものと思われる。しかし、補習や個別指導の項目で生徒・保護者のA B評価の割合が減り、達成度も下がってしまった。教員の評価と異なっているので、教育相談やアンケートなどを通して、コミュニケーションをとり適切に対応していく必要がある。生徒の進路実現が本校に求められる最大のミッションであり、生徒・保護者・学校の三者の意思疎通を図りながら、生徒の進路目標実現への取組みをさらに充実させなければならない。

また、一年生からは新しい高大接続テスト等の制度改革を控えており、それに応じた指導体制の確立が課題となっている。現在は手探りの段階だが、教員間で研修会等で得た情報を共有し、新しい指導法に向けて知恵を絞りながら、学校行事や授業、課外活動を通して質の高い教育の実現を目指していく。

### III 生徒指導および部活動(服装・頭髪、言葉遣い、部活動等に関して)

教育相談体制の充実の項目においては、昨年度と同様の高い評価を得た。今年度の取組みとして、スクールカウンセラー(S C)を講師とした教員向け校内研修会、クラス担任による教育相談週間、日常的な声かけ指導、定期的なアンケート、S Cによる生徒面談を実施した。これにより、正確な生徒理解や教員間の情報共有を継続できたことが要因と考えられる。

しかし、生徒指導の方針や方法の理解の項目や相談できる教員の項目では生徒・保護者のC D評価の割合がともに約20%となった。学校・生徒間、学校・保護者間での共通理解が一部得られていないところがあるようだ。信頼される学校を目指して、これが0%に近づくよう普段の学校生活でのコミュニケーションや家庭との連携を密にしていかなければならない。また、生徒・保護者と教員の間で、生徒の服装頭髪の乱れや言葉遣い、礼儀作法の評価が異なる結果となった。これは、教員が指導の必要な一部の生徒に対する印象であり、全体では良好であると考えられる。今後も安心・安全な場としての環境整備とさらなる信頼関係の構築に細心の注意を払い、指導を進めていきたい。

### IV その他(整理整頓、生徒の学校生活等に関して)

保護者からは90%以上、生徒からも80%以上のA B評価となり、高い評価を得られているようである。しかし、学校からの情報伝達に関しては昨年度に比べA B評価が10%以上下がり、学校と家庭間の情報共有に改善が必要である。一方、生徒・保護者からの「学校生活が楽しい(楽しく学校に通っている)か」の項目に対するA B評価の割合がともに昨年度より上昇しており、今後もこの水準が続くよう、よりよい学校づくりに励んでいきたい。

今年度は保護者の回答率が約85%にのぼり、多くの方に回答していただき感謝申し上げます。より正確な評価につながりますので、次年度もご協力くださいますようお願いいたします。